

それゆえ、少しでも興味のある分野の本なら、当面の仕事や勉強に役立たなくても、まずは手に取ってみるくらいに「心を開いていること」が大切です。

「それゆえ、」は、理由を表すということを確認したうえで、そのまま **therefore** にしておきます。

そして、「まずは～大切です。」を中心に、「少しでも～本なら、」と「当面の～役立たなくても」が修飾表現として表現できると思いました。ただし、二つの修飾表現は「大切です」にかかっているわけではなく、「手に取ってみる」を修飾しています。これに気を付けながら、最終調節をしていこうと思います。

A. **まずは手に取ってみるくらいに「心を開いていること」が大切です。**

中心となっている述語を探します。

(a) **「心を開いていること」が大切です。**

「大切です」をヒントに、

▪ **it is important to DO 「DO することは大切だ」**

を述語にします。

(1) **it is important to DO**

DO には「心を開いている」を英語で表現したものが入ります。字義どおりに訳出しようとする、と、**S open ONE's heart** が浮かびますが、意味は「S は本心を明かす」なので、この文脈には適しません。イメージをしっかり浮かべてみます。

心が開いていないならば、本などを見ても、見向きもしない状態です。ということは、「心を開いている」というのは、**【見向きができる状態】**です。**【「どれどれ？」となるような状態】**は、

▪ **S is interested in A 「S は A に興味を持っている」**

ですね。これを DO の中に入れます。

(2) **it is important to be interested in A**

【興味の対象】である A には何が入るでしょうか。イメージ的には、**【特に何かと決まっているわけではありませんが、とにかく様々なもの】**です。何か具体的に、野球や、フランス語のように決まってないので、細かい特徴を捨象して使える **things** を用意します。そして、**【様々な】**

感じを出すために、**a variety of things** でもいいですし、**a lot of things** でもいいと思います。

(3) **it is important to be interested in a variety of things**

ちなみに、「心」や「開いている」をどうしても字義通りに訳出したかったら、

- **S is open-minded** 「SはA(新しい考えなど)を受け入れやすい」
が使えます。が、なかなか思い付けませんよね。

(b) まずは手に取ってみるくらいに

ここまでにした英語で言うと **interested** の【程度】を表すために、それを修飾する表現を作ります。【程度】を表す表現は、

- **enough to DO** 「DOするのに十分」

や、いわゆる **so...that SV 構文** が使えますが、今回は前者を使うことにします。

(4) **enough to DO**

DO には「手に取ってみる」が表すイメージを英語にしたものが入ります。「～してみる」から **try** が使えると思いました。【実際にとる】「くらい」なので、

- **S try DOING** 「Sは(実際に)DOINGしてみる」

を使います。ちなみに、

▪ S try to DO は「S は DO しようとしてみる」

で、実現しているかどうかは積極的に表せていません。なのでここでは前者を使うことにしています。

(5) enough to try DOING

DOING には、「手に取る」を英語にしたものを入れていきます。ぱっと思いつくのは、

▪ S take A 「S は A を取る」

ですが、

▪ S pick up A 「S は A を持ち上げる」

でもいいですし、持ち上げるだけでなく、実際にその後にするであろう、

▪ S read A 「S は A を読む」

を用いてもいいと思います。ここでは 2 番目のものを利用します。

(6) enough to try picking up A

【持ち上げる対象】である A は、日本語では直接書かれていませんが、イメージを浮かべると【本】なのがわかります。この文脈の場合、一冊だけを表してもいいですし、数冊を浮かべてもいいと思います。ここでは、前者を取って、a book を A に入れます。

(7) enough to try picking up a book

まずは

字義どおりに訳出すると、

▪ to begin with 「まず第一に」

が出てきそうですが、これは何らかの【順番】があることを前提としています。ここでは順番的な部分は想像しづらく、【本当にその行為を！】のような感じだと思います。こういった場合、**just** をその強調したい表現の前に置くのですが、なかなかここまでは難しいですね。

(9) **enough to just try picking up a book**

(c) (a) + (b)

最後にこれを(2) **it is important to be interested in A** の **interested** に修飾させます。(2)の **things** の後ろに置くと、ちょっと距離があります。それでも英語として大丈夫だと思います。が、心配な場合は、**enough** と **to** 以下を分けて、**interested** の後ろに **enough** を置き、それ以外を文末に置き、**interested** を修飾していることをより明示的に示すこともできます。難しいですけどね！

(10) **it is important to be interested enough in a lot of things to just try picking up a book**

今回は距離を置く方を採用します。

(11) **it is important to be interested in a lot of things enough to just try picking up a book**

B. 少しでも興味のある分野の本なら、

修飾表現なので、どうやって A. でできた(11) it is important to be interested in a lot of things enough to just try picking up a book につなげるか、つなぎの表現から考えます。

(a) (S) (V) するなら、

日本語ではつなぎの表現は、末尾に来ることが多いので、それを参考に、「なら、」に着目し、

- if (S)(V) 「もし(S)(V)なら」

を使おうと思います。

(12) if (S)(V)

(b) 少しでも興味のある分野の本

とはいえ、日本語を見てみると、「少しでも興味のある分野の本」のように、カタマリとして、名詞の形をしています。文の形として表現するために、文レベルのものに取り組む際に使う、述語から表現してみるという方針を試してみます。

まずこの場面は、本との出会いの場面です。その中で、じっくりイメージをしてみると、「少しでも興味のある分野の本」に対して、例えば本屋などで、【なにこれ！？】となっている人がいる感じがしました。【ファーストコンタクト】感や、【目に入ってきている】感じを表現する述語

を頭の中で探してみると、**find** が見つかりました！

▪ **S find A 「S は A を見つける」**

これは難しかったです。

【見つける主体】である **S** は、引き続き **you** を、**【見つけられた対象】**である **A** には **a book** を入れます。

(13) **you find a book**

(c) (a) + (b)

予定通り、(12)の **if (S)(V)の(S)(V)**に(13)を入れます。

(14) **if you find a book**

ちなみに、ここでの中心を **S is interested in A** にすると、なぜか、様々な部分で不具合が生じてきてしまいました。その悩み具合、説明したかったんですが。。。紙面の都合で割愛させていただきますね。悪しからずです。

分野の

修飾語はつながぎの表現からですね。「の」とくると、

- of A 「A の」

が浮かびますが、その分野が、本を所有しているわけではないからか、

- about A 「A についての」

や、専門性が上がると、

- on A 「A に関する」

を使うのが基本となっています。今回は **about A** を採用します。

「少しでも興味のある分野」は、一つとは限りません。なので、読み手が特定できないと思い、**a field** にし、**about A** の **A** にいれて、**a book** の後ろにつなげることにしました。

(15) if you find a book about a field

少しでも興味のある

文の形で **a field** を修飾しそうな感じです。関係詞節を狙います。中心は、

- S is interested in A 「S は A に興味がある」

です。【興味を示す主体】である **S** には、引き続き【一般の人】なので **you** を入れます。【興味を引き起こす側】である **A** には、「分野」です。**a field** を使います。

(16) you are interested in a field

「少しでも」の「でも」は **even A** 「**A でも**」が使えます。A に入る「少し」は、日本語で言うと「興味のある」にかかっています。それに対応する **interested** が「少し」のとき、**a little** を直前に置きますよね。そして **even A** の A に **a little** が入るということなので、次のようになります。

(17) **you are even a little interested in a field**

関係詞節にします。先行詞 **a field** と重なっている部分を **which** にして、カタマリの前に置きます。

(18) **which you are even a little interested in**

最後に(16) **you are interested in a field** の **a field** の後ろに置きます。

(19) **if you find a book about a field which you are even a little interested in**

C. 当面の仕事や勉強に役立たなくても、

修飾表現なので、つなぎの表現から取り組みます。

(a) (S)(V)しても、

「ても、」に着目し、

- even if (S)(V) 「たとえ(S)(V)しても」

を使おうと思います。

(20) even if (S)(V)

(b) 当面の仕事や勉強に役立たない

a. 仕事や勉強に役立たない

(S)(V)の(V)は、日本語を参考に「役立たない」に当たる英語を想像しました。

- S is useful for A 「SはAに役に立つ」

を否定文にして使います。【役に立つもの】であるSは、【本】です。さらに言うと、先ほど出てきた「興味のある分野の本」です。the book を用意しておきます。

(21) the book is not useful for A

【役立つ対象】である A には、「当面の仕事や勉強」を英語で表したものが入ります。「仕事や勉強」は **work and study** で OK です。

(22) **the book is not useful for work and study**

b. 当面の

最後に「当面の」です。これは難しそうです。

まず確認事項を一つ。日本語では「500 年前の日本人」や「明後日の試験」のように、時の表現がよく、名詞とつながります。一方英語では、時の表現は、文末や文頭に置く、いわゆる副詞表現として表現することが多いです。なので、今回も **is not useful** を修飾するものとして、日本語的には「当面」に当たる表現を探します。

状況を浮かべてみました。具体的にどういうものが「当面の」かという
と、【ここ二、三か月の間】くらいのもので、どうやら【期間】を表す
ようです。【今】を含めて【未来の三か月くらいの間】は、

▪ **for the time being** 「当分の間は」

です。これは難しかったですね。

(23) **for the time being**

c. a. + b.

時の表現は、修飾する文の前に置いても後ろに置いてもいいのですが、
ここでは後ろに置くことにしました。

(24) the book is not useful for work and study for the time being

(c) (a) + (b)

(20)の even if (S)(V)の(S)(V)に、(24)を入れます。

(25) even if the book is not useful for work and study for the time being

D. A. + B. + C.

主節である(11) **it is important to be interested in a lot of things enough to just try picking up a book** の前後に、(19) **if you find a book about a field which you are even a little interested in** と(25) **even if the book is not useful for work and study for the time being** をそれぞれ配置したいのですが。。。

全体方針でも述べたように、(19)と(25)は(11)の述語である **it is important ...**を修飾しているのではなく、**enough to DO** の **DO** に入っている、**try picking up** を修飾しています。(11)の前に置くと、**try** あたりを修飾することができないので、やむなく二つの修飾語を並べて後ろに置きます。

(20) **It is important to be interested in a lot of things enough to just try picking up a book if you find a book about a field which you are even a little interested in even if the book is not useful for work and study for the time being.**

when (S)(V)や **though (S)(V)**などの**接続詞 (S)(V)**で、いわゆる副詞節を作るタイプの場合は、主節の後ろに置いたときに、その直前にカンマを置くことはないのでありますが、今回は **even if (S)(V)**の前に置きます。直前の **find** や **are even a little interested** を修飾してないということを示すためです。

当初の予定通り、**therefore** をつけて終了です。**therefore** の後ろのカンマをお忘れずに。

- (21) Therefore, it is important to be interested in a lot of things enough to just try picking up a book if you find a book about a field which you are even a little interested in, even if the book is not useful for work and study for the time being.

Model Answer

Therefore, it is important to be interested in a lot of things enough to just try picking up a book if you find a book about a field which you are even a little interested in, even if the book is not useful for work and study for the time being.